

# 第42回神奈川県病院学会 プログラム

メインテーマ

「病院の輝く明日へ ～医療×DX～」

日時：2023年10月18日(水)  
13:00～18:00

会場：ホテルメルパルク横浜 2階  
横浜市中区山下町16

現地開催

特別講演・シンポジウム・一般演題

ライブ配信及びオンデマンド配信

特別講演・シンポジウム

主催：公益社団法人神奈川県病院協会

学会長：神奈川県病院協会 会長 吉田 勝 明

学術委員長：           "           副会長 長 堀       薫

# 第 42 回神奈川県病院学会

## 協 力 団 体

(公社)横浜市病院協会	神奈川県医療専門職連合会
(公社)川崎市病院協会	(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会
(公社)相模原市病院協会	(公社)神奈川県栄養士会医療事業部会
三浦半島病院会	(公社)神奈川県看護協会
鎌倉市医師会病院会	神奈川県公衆衛生協会
湘南病院協会	(一社)神奈川県作業療法士会
湘南西部病院協会	(一社)神奈川県精神保健福祉士協会
厚木病院協会	(公社)神奈川県病院薬剤師会
大和・高座病院協会	(公社)神奈川県放射線技師会
小田原医師会病院会	(公社)神奈川県理学療法士会
足柄上病院会	(一社)神奈川県臨床検査技師会
	(公社)神奈川県臨床工学技士会
	(公社)全国病院理学療法協会神奈川県支部

(公社)：公益社団法人

(一社)：一般社団法人

記載なし：任意団体

# プログラム・目次

時 間	会 場	内 容	<ページ>
13:00~13:10	2階 エトワール	開会 ・開会の辞 ・学会長挨拶 ・来賓挨拶	<1ページ>
13:10~14:10		特別講演 ・「医療 DX 推進の必然を問う」 ・「IT/AI の病院への実装を目指して」	<1ページ>
14:10~15:30		シンポジウム 「あなたにもできる医療×DX」  <事例発表> ・「サルビアねっと」の現状と将来」 ・「音声入力電子カルテ導入の 取り組みから広がる病院 DX」  <特別講演者とシンポジストによる意見交換>	<3ページ>
15:30~15:40	休憩		
15:40~17:40	2階 ルビー	一般演題 □演（グループ1）	<7ページ>
	2階 ヒスイ	一般演題 □演（グループ2）	<8ページ>
	2階 シェリー	一般演題 ポスター（グループ1） ポスター（グループ2）	<9ページ> <10ページ>
17:40~17:50	休憩・一般演題表彰審査		
17:50~18:00	2階 エトワール	閉会 ・学会長表彰 ・閉会の辞	<11ページ>

※ 配信（ライブ&オンデマンド）について <12ページ>

## I 開 会

13:00～13:10 <会場 2階エトワール>

総合司会	神奈川県病院協会	常任理事	高野 靖 悟
開会の辞	神奈川県病院協会	副会長	長堀 薫
学会長挨拶	神奈川県病院協会	会長	吉田 勝 明
来賓挨拶	神奈川県健康医療局	局長	足立原 崇
	神奈川県医師会	会長	菊岡 正 和

## II 特別講演 (1時間 各30分×2名)

13:10～14:10 <会場 2階エトワール>

### 「医療DX推進の必然を問う」

社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院理事長

神野 正 博

#### プロフィール (かんの まさひろ)

1980年日本医科大学卒業。1986年金沢大学大学院医学専攻科卒業(医学博士)後、金沢大学第2外科助手、恵寿総合病院外科科長、同病院長を経て1995年 特定医療法人財団董仙会(2008年11月より社会療法人財団に改称)理事長

2011年 社会福祉法人徳充会理事長併任

専門は消化器外科。全日本病院協会副会長、日本病院会常任理事、日本社会医療法人協議会副会長、石川県病院協会副会長、サービス産業生産性協議会(SPRING)幹事、七尾商工会議所副会頭ほか。

現在、厚生労働省において社会保障審議会医療部会委員を務める。



日本の人口構造の変化は、今後の医療介護提供体制に変革を必要とする。高齢化以上に、これから来る生産年齢減少に対応せねばならない。人手不足に加えて、全職種における働き方改革への対応とさらに物価、人件費が増える中でのサービス提供体制の構築を模索せねばならないのである。

これらの時代の変化を見越した新たなサービスの構築を図るのは、深刻な状況になってからではなく、「いま」こそ構築の時と心得たい。そこでは、単なるデジタル化ではない仕組みを変えるDX推進が必要だろう。

その意義と、恵寿総合病院における事例を紹介する。

# 「IT/AI の病院への実装を目指して」 慶應義塾大学医学部放射線科学（診断）教授 陣 崎 雅 弘

プロフィール（じんざき まさひろ）

## 【職 歴】

1987年 慶應義塾大学医学部卒業。同大学放射線診断科入局  
1999年 Harvard 大学附属 Brigham and Women's Hospital 留学、2006年 慶應義塾大学医学部放射線科学講師、その後同  
准教授、同教授を経て2017年 同大学病院副病院長（医療情  
報システム、IT/AI 担当、予防医療担当）。

2018年 内閣府の創造的イノベーションプログラム「AI ホス  
ピタルプロジェクト」担当、2021年 JST COI-NEXT 共創の  
場形成支援プログラムサブプロジェクトリーダー

## 【主な役職】

日本メディカルAI学会 顧問、日本画像医学会 理事長、  
日本腹部放射線学会 理事長、日本医学放射線学会 理事、  
日本循環器学会 理事、日本超音波医学会 理事、PMDA「AI  
を活用したプログラム医療機器に関する専門部会」委員

## 【専門分野】

画像診断学（循環器、腹部・泌尿器領域）、人工知能の実  
装、機器開発



2018年に内閣府が、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の1つとし AI  
ホスピタルプロジェクトを取り上げた。当院もこのプロジェクトに加わり、病院内  
に萌芽する ICT・AI 技術と開発されつつある技術を体系的に導入し、現時点で可能  
なAIホスピタルのモデルを構築することを目指してきた。これにより、“患者に  
安心・安全な医療の提供”、“患者に高度で先進的な医療サービスの提供”、“医  
師・医療スタッフの負担軽減”、“地域・在宅の高度なサポートの提供”できるよ  
うになることを期待している。現在、35以上の研究課題に取り組んでいる。

実施するにあたって2つのことに留意した。1つは、AIに興味を持つ一部の人が  
関わっているという状態ではなく多くの人が参画しているような組織の構築で、各  
診療科にAI担当医を配置し、中枢組織は小さく、裾野の広い組織にした。これによ  
り、bottom up で課題が上がってくるようになり、課題の共有もできるようになっ  
た。2つめは、診療科に限定的な高度なことよりも、病院全体に共通する単純な課  
題に重点を置いたことである。この2点を行ったことで、我々のAIホスピタルプロ  
ジェクトは病院全体での取り組みになり、DXに近づいたように思う。

### Ⅲ シンポジウム (1時間 20分)

14:10～15:30 <会場 2階エトワール>

## 「あなたにもできる医療×DX」

座長 神奈川県病院協会 副会長 (学術委員長)

横須賀共済病院 病院長 長堀 薫

プロフィール (ながほり かおる)

1978年 横浜市立大学医学部卒業

米国City of Hope ポスドク

山梨医科大学第1外科・横浜市立大学第2外科 講師

肝胆膵外科、腹腔鏡手術を専門とする

2001年 横須賀共済病院 外科部長

副院長等を経て2014年 より病院長

AIを中心としたデジタルトランスフォーメーションを用いて医療者の負担軽減を図っている。また、三浦半島での病院の機能分化とネットワーク化による連携事業をめざしている。



#### 座長から一言

少子高齢化が進む中、切れ目のない質の高い医療の提供に向け、医療分野のデジタル化を進め、医療情報の利活用など医療DXを積極的に推進していくことが非常に重要だと言われています。

しかし、具体的にどのように推進していったらよいのかお困りの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、一般病院として理想的なデジタル技術の推進を図られている神野先生、最先端の大学・病院をあげてAIホスピタルプロジェクトに取り組まれている陣崎先生、モデルとなる地域のデジタルネットワークに取り組まれ成果をあげられている三角先生、内閣府のAIホスピタルプロジェクトに参画しDXを推進している土井先生と、全国的にもフロントランナーである4人の先生方によるシンポジウムを企画しました。

ぜひともご堪能いただき、医療の質を高め、患者さんにもスタッフのためにもなる医療DXの導入のきっかけにしていいただければと願っています。

## 1 シンポジスト事例発表（各20分×2名）

### 「「サルビアねっと」の現状と将来」 済生会横浜市東部病院 院長 三角 隆彦

プロフィール（みすみ たかひこ）

心臓血管外科専門医。

済生会宇都宮病院、足利赤十字病院、平塚市民病院  
心臓血管外科部長などを経て、2007年4月済生会  
横浜市東部病院副院長、2011年4月より現職。

慶應義塾大学医学部 客員教授、横浜市医師会理事、  
神奈川県病院協会常任理事、横浜市病院協会常任理  
事、全国済生会病院長会会長、全国病院連盟副会長、  
日本病院会常任理事、社会福祉法人恩賜財団済生会  
理事など。



我が国において少子高齢化が進む中で、国民の健康増進や切れ目ない質の高い医療及び科学的介護が求められている。

そのための施策として、2007年頃からICTを活用した地域医療介護連携ネットワーク（EHR）の普及が全国的に進められてきた。こうした背景の中で、神奈川県での本格的な取り組みとして、横浜市東部地域に於いて「サルビアねっと」が2019年3月より開始された。スタートから4年半が経過した「サルビアねっと」の現状と将来の展望について今回、考察したい。今後の神奈川県におけるEHRの役割とその方向性を検討する機会になればと考えている。

### 「音声入力電子カルテ導入の取り組みから広がる病院DX」 横須賀共済病院 救急科部長 土井 智喜

プロフィール（どい ともき）

2003年に横浜市立大学医学部を卒業、横浜市立大学  
附属市民総合医療センターや帝京大学医学部附属病院  
などで研鑽、2016年より現職。

自院のAI推進チームでリーダーを務め、人に優しい  
「AIホスピタル」の実現を目指している。



医療の高度化・複雑化に伴い、労働力人口の減少が懸念される2040年に向けて、デジタル技術を活用するメリットは大きい。当院は人からAIへタスクシフトし協働できる「AIホスピタル」を目指し、2018年春より自然言語処理を用いた音声入力カルテに関する取り組みから初め、DXを推進している。また2023年度の研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）「AIホスピタルを実装化するための医療AIプラットフォームの構築に必要な技術に関する研究開発」に採択され、医療AIサービスの社会実装を進めている。この講演を通じて、人にやさしいAIホスピタルの輪を広げていきたい。

## 2 意見交換 (約40分)

(シンポジスト× 特別講演演者× 会場)

座長	長堀 薫
特別講演演者	神野正博 陣崎雅弘
シンポジスト	三井隆彦 土井智喜



## IV 一般演題 (現地開催のみ)

15 : 40 ~ 17 : 40

口演発表            12 演題  
ポスター発表       13 演題

※お名前は、発表代表者のみ記載させていただきました。  
研究者等のお名前は、ホームページか、「第42回神奈川県病院学会  
／一般演題抄録集」(別冊)をご覧ください。

## 口演発表 グループ 1

各 10 分（発表 7 分以内、質疑応答 3 分程度）× 6 名 / 会場 2 階ルビー

① 心臓血管外科におけるオンライン診療カンファレンスでの医療連携

横須賀市立うわまち病院 心臓血管外科  
安達 晃一 (医師)

② わたしのパーソナル DX : デジタルで医師業務を効率化する

横須賀市立うわまち病院 小児医療センター 小児外科  
毛利 健 (医師)

③ 院内感染対策教育の DX 化に向けた e ラーニングの導入と課題

太田総合病院 感染対策室  
蓑原 かおり (看護師)

④ 院内患者搬送における職員の負担軽減

～ストレッチャーアシストロボットの実証～

湘南鎌倉総合病院 事務部  
芦原 教之 (事務)

⑤ 職員用 Wi - Fi の全館設置による職場環境の充実

平塚市民病院 経営企画課  
谷 友太 (事務)

⑥ 地域医療連携システム ID-Link の院内活用のご紹介

菊名記念病院 医療情報システム室  
和田 耕一

## 口演発表 グループ2

各10分（発表7分以内、質疑応答3分程度）×6名 / 会場 2階ヒスイ

⑦ 補助具を用いたTKA後膝関節撮影の検討

金沢文庫病院 放射線科  
三枝 礼紀 （診療放射線技師）

⑧ 当院における新型コロナウイルス感染症の診療体制の構築について

金沢文庫病院 検査科  
江村 和希 （臨床検査技師）

⑨ 退院後の活動・参加の再獲得を目指して ～訪問リハビリテーションとの連携～

クローバーホスピタル リハビリテーション部  
内田 樹伸 （理学療法士）

⑩ 多様化する救急集中治療領域のリハビリテーション

横須賀共済病院 リハビリテーション科  
長谷川 哲也 （理学療法士）

⑪ 情報共有不足によるインシデント事例の問題点と解決案の検討

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
リハビリテーションセンター  
保坂 雄太郎 （理学療法士）

⑫ 医療福祉講座「身寄りのない人への支援～現状と課題・今後の展望について～」  
の報告と今後の活動について

神奈川県医療ソーシャルワーカー協会 会長  
佐野 晴美 （医療ソーシャルワーカー）

## ポスター発表 グループ1

各8分（発表5分以内、討論3分）×6名 / 会場 2階シェリー

- ⑬ DNR を希望する末期腎不全患者の透析治療に関する個別化された意思決定と緩和ケアの重要性

オアシス湘南病院  
大垣 憲司 (医師)

- ⑭ 回復期リハビリテーション病棟での急変時対応向上への取り組み  
～シミュレーション研修と動画マニュアルを導入して～

横浜鶴見リハビリテーション病院 回復期リハビリテーション病棟  
媚山 広司 (看護師)

- ⑮ DX を活用した看護記録質的監査の実施

横須賀市立うわまち病院 看護部  
角井 ゆかり (看護師)

- ⑯ クリニカルラダーによるスタッフの育成支援

横須賀市立うわまち病院 看護部  
椎名 一美 (看護師)

- ⑰ 新人職オリエンテーションで「もしバナゲーム」を行って得た学びとは

金沢文庫病院 看護部  
後藤 直美 (看護師)

- ⑱ グループウェアを利用した院内情報共有の現状と課題  
～職員の意識や仕事はどう変わったか～

クローバーホスピタル 広報企画課  
中野 美和 (事務)

## ポスター発表 グループ2

各8分（発表5分以内、討論3分）×7名 / 会場 2階シェリー

### ⑲ 院内研修オンライン化への取り組み

クローバーホスピタル 薬剤課  
木野 裕子 (薬剤師)

### ⑳ コロナ禍で変化した薬学部実務実習

神奈川県病院薬剤師会 薬学生病院実習検討委員会  
白井 裕二 (薬剤師)

### ㉑ 当院検査科における電子カルテ導入に伴う業務改善について

横浜鶴見リハビリテーション病院 検査科  
牛久 恵 (臨床検査技師)

### ㉒ 未病コンディショニングセンターにおけるリハビリテーションの取り組み

神奈川県立足柄上病院 リハビリテーション室  
三澤 香織 (理学療法士)

### ㉓ 電子カルテ導入を経験して～栄養科の視点から～

横浜鶴見リハビリテーション病院 栄養科  
長嶋 郁美 (管理栄養士)

### ㉔ 便秘症・高脂血症患者に対し水溶性食物繊維を使用した一例

さがみりハビリテーション病院 栄養科  
富永 咲季 (管理栄養士)

### ㉕ 未病（ME-BY0）改善プログラムにおける栄養士の取り組み

神奈川県立足柄上病院 栄養管理科  
上之園 かす美 (管理栄養士)

## V 閉 会

17:50~18:00 <会場 2階エトワール>

学会長表彰                      神奈川県病院協会                      会 長                      吉 田 勝 明

閉会の辞                              神奈川県病院協会                      常任理事                      沼 田 裕 一

## 配信について

### ○配信日・期間

ライブ配信	10月18日（水）13時
オンデマンド配信（予定）	10月25日（水） ～ 11月26日（日）

### ○内容

開会・特別講演・シンポジウム・閉会

（※ 一般演題の配信はありません）

事前のお申込みは不要です。

神奈川県病院協会のホームページ（トップページ）から  
ご参加ください。

URL <https://www.k-ha.or.jp/>

## 公益社団法人神奈川県病院協会

〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町3-1

神奈川県総合医療会館4階

TEL 045 (242) 7221 (代表)

FAX 045 (231) 1794

---